

かんもん

関門 “ノスタルジック” 海峡

かいきょう

とき ていしゃじょう きんだい か きおく
～時の停車場、近代化の記憶～

所在地/北九州市、山口県下関市

指定/国指定重要文化財

国登録有形文化財等

日本遺産



関門海峡

福岡県北九州市と山口県^{しものせきし}下関市の間にある関門海峡の周辺には、明治時代^{めいじ}から昭和時代^{しやうわ}はじめ頃に建てられた近代の建物が数多く残っています。その多くは、日本遺産^{いさん}「関門“ノスタルジック”海峡」を構成する文化財となっています。

明治時代、日本と外国との貿易が本格化すると、山口県の下関港と福岡県の門司港^{もじこう}は外国船が立ちよる国際的^{こくさい}な港として発展しま

す。1891（明治24）年には九州鉄道^{げんかんぐち}の開通により、九州の玄関口として門司港駅がおかれ、1901（明治34）年には、イギリスとの外交（※1）のために下関英国領事館^{しものせきえいこくりょうじかん}（※2）が開かれました。そして、関門海峡をはさんで向かい合う二つの町には、近代日本の役所や商社、銀行、食品工場などが数多く集まりました。このように、門司港と下関港は、陸と海の交通をつなぐ大切な場所でした。しかし、1942（昭和17）年に世界初の海底トンネルで山口県と福岡県が鉄道でつながり、その後、車や人が通るトンネルや関門橋ができたことで、港の役割^{やくわり}も少しずつ変わっていったのです。

現在の門司港は、門司港レトロ地区と呼ばれ、国指定重要文化財の門司港駅〔別ページで説明〕や旧門司三井倶楽部本館^{きゅうもじみついくらぶほんかん}、附属屋^{ふぞくや}〔別ページで説明〕、国登録有形文化財の九州鉄道記念館（旧九州鉄道本社）〔別ページで説明〕など、当時の建物が文化財として残されており、見学することができます。

※1 外交：国と国とが何かを取り決めるために話し合いをすること。

※2 下関英国領事館：下関にあるイギリスの領事（外国にいて、自国民の保護や自国の通商^{つうしょう}の促進^{そくしん}にあたる外交官の一種）の活動の拠点としてつくられた建物。

【もっとくわしく調べたい】

○北九州市市民文化スポーツ局 文化企画課 Tel 093-582-2391

○下関市教育委員会教育部 文化財保護課 Tel 083-254-4697

○福岡県文化財保護課 福岡市博多区東公園 7-7 Tel 092-643-3875